

ドイツ語と日本語のタンデム学習の試み

—成果と今後の課題—

Sprachenlernen im Tandem Deutsch-Japanisch – Ergebnisse und zukünftige Aufgaben

宮下 博幸

1. はじめに

2015年度のドイツ語教育委員会の共同研究では、授業外の広い意味での学習機会の提供が、ドイツ語学習者のモチベーションの向上にどの程度寄与しうるかについて考察することを目標とした。そのような授業外の学習機会には様々なものが考えられるが、今年度の重点として、ドイツ語学習者とドイツ語圏の留学生に「タンデム学習」の機会を提供する試みを実施することにした。¹

「タンデム学習」のタンデム (Tandem) とはドイツ語では二人でペダルをこぐ、二人乗りの自転車のことである。²「タンデム学習」とは、この自転車に乗るときのように、外国語を学ぶ学習者がペアとなって互いに学習しあうという外国語学習の方式である。その際にペアとなる二人は、例えば日本人のドイツ語学習者とドイツ人の日本語学習者のように、互いに相手の言語を学習することを望んでいる者同士であり、そこでは自分の母語を相互に教えあうことが柱となる。このような学習方法は日本では今のところそれほど浸透していないと思われるが、³ 例えばドイツ語圏では、外国語の学習者が自主的に学ぶ機会として重要な機能を果たしている。⁴ 現在関西学院大学にはドイツ語を学ぶ学生と、日本語を学ぶために来日しているドイツ語圏からの留学生がおり、両者を結びつけることで、タンデム学習を行うことが可能である。ドイツ語教育委員会ではこのような機会を日本人学習者とドイツ語圏の留学生に提供することで、特にドイツ語学習者のモチベーションの向

¹ その他の授業外の学習機会として、日本人学生とドイツ語圏の留学生の交流イベント、映画上映会開催などのアイデアがあった。このうちドイツ語学習者とドイツ語圏の留学生との交流イベントは、2015年12月3日に開催した。全体で20名程度の参加者のもと、日本人学習者とドイツ語圏の留学生がそれぞれの出身国の祝祭についてのプレゼンテーションを行い、互いの文化に関する相互学習の機会となった。

² Duden Deutsches Universalwörterbuch (2014) によれば、Tandem は英語からの借用語である。英語では自転車だけでなく、前後に並んだもの、例えば縦並びの2頭立て2輪馬車や重量物運搬用のトラックなども意味する。また英語はこの語をラテン語から借用しているが、ラテン語の本来の意味は「最後に」であり、これが「縦一列に」の意味として使われるようになったようである。

³ 関西学院大学では日本語教育センターによる「日本語パートナー」という制度が設けられているが、これは主に留学生が日本語を学ぶ手助けをするボランティアとしての性格のものである。それに対しタンデム学習は学習者が相互に互いの言語を学習することを前提とする点で大きく異なる。なお今回タンデム学習に参加した日本人学生には、日本語パートナーとして登録している学生も見受けられた。

⁴ ドイツの大学の掲示板には、しばしば個人によるタンデム相手の募集広告が貼られていたり、また外国語学習を担当する教員が希望者にタンデム相手を斡旋するようなことも行われる。

上にどのような効果があるかを考察することにした。本稿ではその報告と、今年度得られた成果をまとめ、またどのような課題が次年度以降に残されているかを考察する。

2. タンデム学習の導入まで

タンデム学習に際してまず必要なのは、希望者を募ることである。そのため日本人ドイツ語学習者、ドイツ語圏の留学生のそれぞれに対して募集を行った。まず10月上旬に日本語、ドイツ語それぞれの募集広告を作成し、日本人学生に対しては言語教育研究センターの事務を通じて各学部に掲示を依頼した。応募者が多いと思われる文学部に関しては、独文の学生全員に文学部の事務を通じてメールで募集を行った。ドイツ語圏の留学生に対しては、CIECに依頼して掲示してもらった。募集にあたっては、あらかじめ連絡用に電子メールアドレスを作成し、⁵このアドレスで募集を一括管理することにした。また管理は文学研究科の大学院生2名に依頼した。希望者は応募時に学習歴と簡単な自己紹介を書いて送るよう指示した。1週間程度の募集期間を設けて希望者を募った結果、日本人学生22名、ドイツ語圏留学生5名⁶の応募があった。募集前はどの程度の応募があるか全く予想できなかったが、募集期間が短かった割には比較的多くの応募があったといえるだろう。このような機会に対する、潜在的な需要があったと思われる。また最初から予想していた通り、留学生一人に対し日本人学生約4名と、日本人の希望者に比べて留学生の数が少ないという状況となり、どのように対応するか検討を迫られることとなった。本来1対1の形が望ましいと考えられるため、パートナーを紹介する日本人学生を絞りこむことも検討したが、今回は試行でもあるため、まずはできるだけ全員にパートナーを紹介する方針とし、留学生に多人数となってもかまわないかを問い合わせた。幸いどの留学生もパートナーが多くともかまわないとのことだったので、日本人学生全員にパートナーを紹介することにした。マッチングに当っては基本的に学習歴を考慮してペアをつくり⁷、日本人学生に留学生のメールアドレスを伝えて自分で連絡をとるよう指示した。マッチングの仕方としては、他に例えば全員を一度に集めて自己紹介をしながら行う方法や、我々が日本人学生・留学生双方にパートナー決定の連絡するという方法も考えたが、前者は皆が集まるのはおそらく難しいために見送り、後者は日本人学生の自主性に任せることで本当にタンデムを希望する学生のみがパートナーを得られるようにするために採用せず、今回のような方法をとった。⁸ またマッチングをしてからは、パートナーがどこで会うのか、パートナーは一对複数であるがマンツーマンで会うかそれとも複数で会うか、どのようなやり方でタンデムを行うか、どのような内容のことは行うか、どのような頻度で会うかなどは学生の自由に任せた。

⁵ アカウントは gmail を利用して作成した。メールアドレスは kwansei_tandem@gmail.com である。

⁶ うち1名は正確には留学生ではなく、秋学期の授業期間中に研究員として滞在しているドイツ人学生であったが、留学生に含めている。

⁷ 他にできれば女性がよいという女子学生からの希望があったので配慮した。

⁸ したがって最終的に日本人学生全員が紹介した留学生のパートナーと連絡をとったかどうかは把握していない。以下で述べるアンケートの回答は、すべてタンデム相手と連絡をとった学生であった。

3. アンケートによるタンデム学習の成果

以上のように自由にタンデムを行う機会を提供した結果、実際どのようなタンデム学習が行われたのかについては、授業終了後の2月上旬にアンケートを配布して、調査を行った。⁹ 日本人学生には日本語、留学生には同一内容のドイツ語のアンケートを添付ファイルで配布し、記入後返送するよう依頼した。アンケートでは以下の13項目について質問した。

1. タンデムパートナーと連絡は取り合いましたか。
2. どのような手段でタンデム学習を行いましたか。
3. どれぐらいの頻度でタンデム学習を行いましたか。
4. タンデム学習を継続して行うことができましたか。
5. どこでタンデム学習を行いましたか。
6. タンデム学習は複数人で行いましたか。またはマンツーマンで行いましたか。
7. 日本語とドイツ語の割合は。
8. どんな内容について話しましたか。
9. コミュニケーションはうまくいきましたか。
10. タンデム学習で気になった点（あれば）
11. タンデム学習の満足度
12. これからも連絡を取り合いたいですか。
13. タンデム学習の感想（自由記述）

5日間の期限を設定して、アンケートを回収した。日本人学生の回答数は8名、留学生の回答数は3名であった。日本人学生に関しては3割ほどの回答率であり、以下で見るように全員がパートナーに会ってタンデム学習を試みた学生であった。留学生からは5名中3名の回答があった。特に日本人学生に関する限り、回収率はそれほど高くないため、以下のアンケートの考察は限定的なものと理解されたい。以下ではそれぞれの項目について見ていきたい。

1. タンデムパートナーと連絡は取り合いましたか。

上で述べたとおり、回収したアンケートの回答者はすべてタンデムパートナーと連絡をとっていた。今回日本人学生が留学生に連絡をとるように指示したのだが、アンケートに回答しなかった日本人学生の中には、パートナーと連絡をとらなかった学生も存在しているかもしれない。この点については今回は検証できなかった。

⁹ アンケート作成にあたっては、再び募集のメール管理を依頼した大学院生二人に協力してもらった。

2. どのような手段でタンデム学習を行いましたか。

この質問については選択肢として「メール」「SNS」「Skype」「会う」「その他」を挙げたが、Skype でコンタクトをとるという回答はなく、すべて「メール」「SNS」「会う」のいずれかであった。またすべての回答者が「会う」を挙げていたので、メール、SNS で連絡をとりあって会う、という形が取られていたと考えられる。Skype でのコミュニケーションも最近是一般化しつつあるが、やはり Tandem は対面で行うものという認識があると考えられる。

3. どれぐらいの頻度でタンデム学習を行いましたか。

最も多かったのが「週 1 回」という回答であった。さらに「週に 1, 2 回」という回答や、「2 週間に 1 回」「月に 1 回」「ほとんどできなかった」という回答があった。学期中は日本人学生、留学生共に授業等で忙しく、週 1 回というのが現実的に可能な回数であると思われる。また月に 1 回という回答の理由は、会おうとしたがお互いの時間割等の都合で予定が合わなかったためとのことであった。なおタンデム学習の頻度と満足度は相関関係にあるようであった。週 1 回以上タンデム学習の機会があった学生はおおむね満足していたが、タンデムの頻度が少ない学生には、満足できなかったという回答が見られた。会えなかった理由が主に時間割にあるだけに、今後は前もって可能な時間帯を聞いておき、マッチングの際に調整する作業が必要となろう。

4. タンデム学習を継続して行うことができましたか。

タンデム学習を始めた学生は、ほとんどが継続的にタンデム学習を続けている。「いいえ」という回答に関しては、その理由も質問したが、「お互いの予定がなかなか合わなかったため」ということであった。学生自身も努力する必要があるだろうが、上で述べたように時間割の調整が重要である。

5. どこでタンデム学習を行いましたか。

基本的に「大学内」という回答が多数であった。大学内の場所を記した回答では「大学食堂」「G 号館グローバルラウンジ」「中央芝生」が挙げられていた。またその他に「街中」や「家」という回答もあった。「街中」や「家」と回答した回答者はどちらもタンデム学習がうまくいっているペアであった。このことから大学でのタンデム学習がうまくいくと、さらに大学以外の他の場所でも会ったりするようになるのではないかと想像される。

6. タンデム学習は複数人で行いましたか。またはマンツーマンで行いましたか。

日本人学生、留学生ともにほとんどの回答が「マンツーマン」であった。日本人学生と留学生との比率を考えると、留学生が週に何度もタンデムを行っていたという状況が想像できる。これに関しては今回留学生から不満はなかったが、約 4 対 1 という比率は多すぎたかもしれない。また複数で会うとなると全員の空き時間を見つけないければならず、かえって時間設定が難しいという問題もあったと考えられる。あらかじめタンデム可能な時間帯を申し出てもらっておけば、グループでのタンデムももう少し容易になると思われる。また今回は質問に加えることはできなかったが、マンツーマンとグループのどちらの形式がよいかについても問う必要があるだろう。

7. 日本語とドイツ語の割合は。

日本語とドイツ語の割合は、パートナーによってまちまちであった。「日本語 3 割、ドイツ語 7 割」、逆に「日本語 7 割、ドイツ語 3 割」といった回答などがあったが、どちらかというと日本語の割合が高くなっている。これは日本語を学習している留学生の日本語の知識の方が、日本人学生のドイツ語の知識に勝っているためとも考えられるし、留学生は日本まで日本語を勉強に来ていることもあり、留学生の方が積極的であるためとも考えられる。このあたりはさらに調査が必要かもしれない。とはいえ **Mit einem Partner, welcher schon einmal in D war, haben wir fast nur Deutsch gesprochen.** (すでにドイツに滞在したことがあるパートナーとは、ほとんどドイツ語だけで話した) という留学生からの回答もあった。また「お互いに日本語・ドイツ語初心者だったため、ほとんど英語でのやり取りになった」というパートナーも見られた。このようにどのような言葉をどの程度用いるかは、パートナーそれぞれのドイツ語・日本語の能力に大きく依存しているのは確かであろう。どの程度日本語・ドイツ語を用いるかに関しては、それゆえパートナー同士でそのつど決めていく必要があるだろうが、本来のタンデム学習の趣旨からすると、使用言語はなるべく半々にするようにといった目安を最初に提示することも有効だと思われる。

8. どんな内容について話しましたか。

タンデム学習の主要な目的は、言語を相互に学習しあうことにあることは冒頭に見たとおりだが、学生たちは宿題で分からないところの相互補助、授業の復習、テスト対策、検定試験の対策、スピーキングテストの練習などを行う他に、様々な内容について話したようである。例えば日常の会話や、趣味のこと、お互いの文化や歴史に関する話題、勉強についての相談、授業であったクリスマスパーティーで使うドイツ料理のレシピ、またドイツ旅行を計画している学生の相談などのテーマについて語ったと報告している。このように単なる授業の延長線上の学習にとどまらず、広い意味での学習が実現できていることは好ましいことだと思われる。ただし後で見る留学生の自由記述にあるように、タンデムで何を行うかがはっきりしていなかったという意見は尊重すべきだろう。タンデムにおいて何をするのかということを経験者がはっきりと意識し、目標設定をすることは、効果的なタンデム学習を行うために必要なことだと思われる。

9. コミュニケーションはうまくいきましたか。

以上のようにどの程度どの言語を用いたかには差はあったが、コミュニケーションはうまくいったとほぼ全員が回答している。どの言語を用いたのであれ、外国人とのコミュニケーションの成功の経験を積むことができたという点では、とくに海外経験のない日本人学習者にとって非常に有益であったといえるだろう。ただし日本人学習者のうち、一人だけ「いいえ」と回答した学生がいた。理由としては「私のドイツ語の会話力が高くないので」とのことであった。

10. タンデム学習で気になった点（あれば）

「気になった点はない」という回答が特に多い中で挙げられていたのは「ドイツ人の日本語能力が優れていて、ついつい日本語で会話ががちだった」「お互いの時間が合わず、数回しかできなかった。1人のドイツ人に対して日本人が多すぎる」という点であった。最初の点に関しては、どの

程度日本語とドイツ語を話すのかということをもとに最初に取り決めておくよう指示することで、ある程度の解決が可能であろう。後者の点に関しては「グループでやろうとすると日本人が多いため都合が合わない」という意図だと考えられる。これに関しては上にも述べたように、申し込みの時点で可能な時間帯を記載させておき、それをもとにマッチングを行うといった工夫が必要だろう。また留学生の回答には、Einige der Tandempartner haben sich nur 2 mal gemeldet. (タンデムパートナーの数人は2回しか連絡をよこさなかった) というものもあった。このように日本人学習者のタンデムのモチベーションが下がった理由についても、今後検討していく必要があるようである。

11. タンデム学習の満足度

タンデム学習の満足度に関しては、「たいへん満足した」が11名中6名、「やや満足した」が2名、「ふつう」が3名、「満足していない」が1名であった。全体としては満足度が高かったと評価できる。「満足していない」と答えた学生は留学生で、時間割が合わずに会おうとしても会えなかったと回答していた学生である。この点が解消されるなら、おそらく満足度はより高かったであろう。

12. これからも連絡を取り合いたいですか。

この質問に関しては1名を除いて全員が肯定的な回答であった。「いいえ」と回答した1名は、その理由として「今後は会うこともないと思うので」と記していた。この学生のパートナーは秋学期のみの滞在でドイツに帰国する留学生だったが、他のじきに帰国する留学生とパートナーになっている学生は連絡を取りたいと回答していた。この学生は上の項目で自分のドイツ語力が不十分であることからうまくコミュニケーションがとれなかったと回答していた学生である。コミュニケーションの成否が、その後の関係に大きく影響するものと考えられる。

13. タンデム学習の感想（自由記述）

最後に自由記述欄の記載についてみていきたい。まずは記録も兼ねて、コメントのあった学生の記述を記載する。¹⁰

学生1：タンデムパートナーとは毎週決まった時間に会ったり、LINEでやり取りをしたりしていました。授業でクリスマスパーティー（ドイツ式の）があり、そのパーティーで私はシュトレンというドイツの伝統菓子を作ることになりました。その時、レシピを聞くとわざわざドイツのお母さんに連絡を取り、本格的なレシピを教えてくださいました。また、観光で私の地元を訪れてくれました。もうドイツに帰国してしまいましたが、これからも連絡を取り合おうと言っています。私のタンデムパートナーはとてもいい人だったと思います。しかし、同じようにタンデムパートナーに募集した友人の中には上手く連絡を取れなかった、あまり会うことができなかったと言う友人もいました。友人の話を聞くと、私はタンデムパートナーに恵まれていたと思います。

¹⁰ なお留学生の回答者3名のうち、1名からは特にコメントはなかった。

学生2：タンデム学習は私にとって大学に入って初めての外国の人との交流でした。いつも授業で習った範囲のドイツ語を教えてもらったし、ドイツの文化もたくさん教えてもらい、とても楽しい時間を過ごせました。日本語の敬語などを少し教えてあげましたが、日本語を教えるのも難しいなと実感しました。言語だけでなく、お互いの文化の違いなども勉強することが出来て、とてもいい経験になりました。

学生3：楽しく学習できたと思う。授業で習った文法を实际使うフレーズとともに学習できたことは、良い復習になった。語学だけでなく、日本とドイツの祭りや食べ物、こども番組についても話したりした。互いに充実した時間だったと思う。また、良い友達にもなれて、一緒にご飯を食べに行ったりもできた。これからも友達として、関わっていききたい。

学生4：お互いに初心者だったこともあり、あまり日本語・ドイツ語で会話することはありませんでしたが、ドイツや日本の教育制度や文化などについて意見を交わしたり、いろいろなことを教えあったりすることができて非常に満足しています。ドイツ語を教えてもらったり日本語を教えたりするだけでなく、一緒にクリスマスマーケットに出かけたりすることもできたのでとても楽しかったです。今後このような活動に参加するときは英語に頼ってしまわずにドイツ語で会話できるよう、さらに勉強を進めて行きたいと思います。英語が話せると、どうしても外国の人々と話すときは英語に頼ってしまいがちになりますが、これからはドイツ語や他の外国語でも会話ができるように、どんどんレベルを上げていきたいと感じています。もし来学期もタンデムパートナーの募集があれば、ぜひまたやりたいです。

学生5：気になる点はいくつかありましたが、タンデムをすることによって分からないところを教えてもらったり、会話の練習をしたり、ドイツについていろいろ聞いたことは大変良かったです。これからもタンデムパートナーの募集があるのなら、ぜひ申し込みたいです。

学生6：学習自体は非常に楽しく、お互いに積極的に行うことができたと思います。

学生7：お互いに聞き取ることはできても、言いたいことがなかなか上手く表現できず苦勞することも多かったですが、普段のインテンシブの授業以外でドイツ語のネイティブスピーカーと話せる機会はほとんどないので、とてもいい経験になったと思いますし、今後の学習意欲を高めるきっかけにもなりました。ありがとうございました。

学生8：今回のタンデムパートナーでドイツへのイメージがいろいろ変わったり、日本語でのドイツ語の授業では学ばないことなどたくさん教えてもらえました！（くしゃみをする度にかける言葉や、いただきますの代わりのような言葉など）もちろん私からも日本のことをできる限り教えたつもりですし、観光地にも一緒に行きました！大阪城やユニバーサルスタジオジャパンを案内しましたが、本当に楽しかったです。待ち時間にもドイツのことをいっぱい聞けて、たくさん刺激をもらいました。彼女と最低週に一回会っていたことでリスニングのスキルが自分の中で向上したように思います。講義では文法がメインなので、聞き取りの練習がないので本当に身になりました。結果、独検3、4級とも見事合格し、リスニングはどちらも満点でした！私が交換留学の推薦者として決まった大学から彼女が来ていることもあり、もし留学が決まったら心強い知り合いが現地にすでにいるのもありがたいです。ただ彼女のお姉さまが日本にいらした時、もちろん日本語が通じず気持

ちを伝えることができませんでした。彼女の日本語スキルに頼ってしまっていた面に気づかされ、これではいけないとドイツ語の勉強にさらに取り組んでいます。今後はしばらく会話練習をすることはタンデムパートナーとはできませんが、彼女を通じて知り合いになったまだ関学に在留するドイツの留学生と話していこうと思っています。ぜひまた機会があったらタンデムパートナーに応募したいと強く思います。

留学生 1 : Es wäre vermutlich besser, wenn die Partner nach Stundenplänen zugeordnet werden. (パートナーの授業の時間割をもとにパートナーの割り当てを決めるのがよいのでは)

留学生 2 : Es war etwas unstrukturiert: Oft wussten meine Partner nicht, was sie während des Tandem machen wollen. Ich glaube, man sollte vorher einen Plan aufstellen, was man am liebsten üben möchte (z.b. Hausaufgabenhilfe, Konversation, einfach nur Spaß haben) und das eventuell auch vorher vorbereiten. Ansonsten finde ich die Idee von Tandem toll. Für mich war es schön etwas Deutsch zu sprechen und zu sehen, dass andere auch an meine Kultur interessiert sind:) (内容があまりきちんと決められていなかった。私のパートナーはタンデム中に何をしたいのかわかっていなかった。前もって何をやりたいのか、計画を立て(例えば宿題の補助、会話、単に楽しむだけ)、場合によっては前もって準備をするのがいいと思う。それ以外はタンデムのアイディアは非常によいと思う。私にとってはちょっとドイツ語を話し、他の人がドイツ語圏の文化に関心を持っていることを知るのよかった)

以上の記述でわかるとおり、特に日本人学習者はほとんどの回答者がタンデムに満足したという内容の回答を行っている。また回答の分量もかなり多いものが多かったが、これも満足の度合いを表していると見ることができるかもしれない。

まずドイツ語の学習面での効果としては、学習が楽しく行われ(学生6)、今後の学習意欲を高めるきっかけになった(学生7)との報告がなされている。また具体的な効果として「独検3、4級とも見事合格し、リスニングはどちらも満点」(学生8)だったとの報告もあった。このようにドイツ語学習者は授業とは違ったスタイルでの学習が、効果の高いものだったと認識しているといえる。またそれがドイツ語の授業のモチベーションを高めることにもつながるものと考えられる。

またその他の面での効果として、多くの学生が文化的な面での知識の獲得を挙げていた。例えば「言語だけでなく、お互いの文化の違いなども勉強することが出来」(学生2)た、「日本とドイツの祭りや食べ物、こども番組についても話したりした」(学生3)、「ドイツや日本の教育制度や文化などについて意見を交わしたり、いろいろなことを教えあったりすることができ」(学生4)たのような感想があった。これは特にタンデム学習の大きな効果であったといえよう。

さらにタンデムはタンデム学習を超えて、個人的な交流にもつながっていったようである。「観光で私の地元を訪れてくれ」(学生1)た、「良い友達にもなれて、一緒にご飯を食べに行ったりもできた」(学生3)「ドイツ語を教えてもらったり日本語を教えたりするだけでなく、一緒にクリスマスマーケットに出かけたりすることもできた」(学生4)、「大阪城やユニバーサルスタジオジャパンを案内し」(学生8)たなど、授業ではできないような経験をすることができたようである。

以上の結果が、学生の「もし来学期もタンデムパートナーの募集があれば、ぜひまたやりたい」（学生4）、「ドイツについていろいろ聞けたことは大変良かったです。これからもタンデムパートナーの募集があるのなら、ぜひ申し込みたいです」（学生5）、「ぜひまた機会があったらタンデムパートナーに応募したいと強く思います」（学生8）のような回答につながっていると考えられる。以上のようにタンデム学習は狭義の学習にとどまらず、楽しみながらモチベーションを向上するためのよい機会となったといえる。

4. アンケートのまとめと今後の課題

以上のように、回収したアンケートから判断する限りでは、タンデム学習はおおむね成功したものであったといえる。ただし上でも見てきたように、今後改善の余地がある点も少なくない。今後のためにここでそれらの点をまとめておきたい。

まず留学生の指摘に見られたように、一番大きな問題として挙げられるのは、会おうとしても時間割の都合で会えないということであった。これについては今後申し込み時に各自のタンデム希望の時間帯も調査し、マッチングに反映していく必要がある。これにより学生1の回答にある「タンデムパートナーに募集した友人の中には上手く連絡を取れなかった、あまり会うことができなかったと言う友人もいました」といった問題も、ある程度回避できるのではないと思われる。

次にパートナー間でどの言葉をどの程度用いるかについて、かなりばらつきがあった。本来のタンデム学習の趣旨からすると、それぞれの言葉を同程度に用いつつ学習するのが望ましいと考えられる。この点についてはタンデムの趣旨を参加者にはっきりと伝え、なるべくそれぞれの言葉を半々にするという目安を持たせることが有効であろう。タンデムの趣旨をはっきり理解していなかったために、留学生が質問8「どんな内容について話しましたか」に対し、**Wir haben vorwiegend Deutsch gelernt.**（主にドイツ語を学習しました）と答えるような状況が生じたものと考えられる。

さらに留学生の自由記述にあったように、タンデムで何を行うかという目標をあらかじめ設定し、それを意識しておくことは、より効果的なタンデム学習につながると考えられる。例えば「タンデム学習計画書」のようなものをあらかじめ配布し、タンデム学習でどのようなことをやるつもりなのかについて、例えば週1回を前提として、参加者にあらかじめ計画を立てさせておくのが望ましいだろう。

また今回は日本人学習者22名、留学生5名の参加者があったが、回答者はそれぞれ8名と3名のみであった。本稿のような検証を事後により詳しく行うためには、申し込みの段階でアンケートの提出を義務付けておくといった工夫も必要だと考えられる。これによりパートナーと連絡をとらなかった学生が存在したのかどうかといった点についても明らかになるものと思われる。

なお本稿では分析を行うことはできなかったが、学習者の満足度はパートナーそれぞれの特徴（学習歴、年齢、性別、積極性など）とも相関関係があるかもしれない。今後の分析の課題としてあげておきたい。

さらに今回のタンデムパートナーの募集は掲示のみで行ったが、それと同時にタンデム学習の趣旨説明を行う説明会の開催を検討してもよいかもしれない。¹¹

5. おわりに

ドイツ語教育委員会では共同研究の枠組みで今回初めてタンデム学習の仲介を試みたが、タンデム学習はオーガナイズに一定の労力がかかるものの、授業での学習のモチベーションの向上にもつながる学習の一つとして、非常に効果があるといえる。¹² また必然的に人と人とのコミュニケーションを伴うことで、一般の学習に比べてより楽しく、より充実した満足感を味わうことができる。近年学生が利用している SNS や Skype などのコミュニケーション手段は便利でよい面もあるが、実際に会うことで行われる対面コミュニケーションが、我々にとって依然として重要で欠くことのできないものであることも、本共同研究で示されたといえる。

¹¹ 日本語教育センターの日本語パートナーの制度では、このような説明会が行われている。ただこのような形をとると、タンデム学習の「制度」としての面が強まる。上で述べたように、もちろん何らかの形でタンデム学習の内容や趣旨の理解を確認する必要があるが、できるだけパートナー同士の自主性に任せ、教員の関与は最小限にとどめるという立場もありうる。

¹² タンデム学習では体系的学習は行われないため、一般の授業とは異なる性質のものである。タンデム学習はあくまで本来の学習の補助であり、ネイティブスピーカー同士の相互のアドバイスの機会と捉えるべきであろう。